

V ひきこもり対策の現状

ひきこもりとは、「様々な要因の結果として社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしていてもよい）」指す*。内閣府の調査によると現在ひきこもり状態にある方は全国で約115万人世帯と推計されている（平成27年度内閣府調査満15歳から満39歳までが対象「若者の生活に関する調査」より54.1万人、平成30年度内閣府調査満40歳から満64歳までが対象「生活状況に関する調査」より61.3万人）。県内でも、平成30年度ひきこもりに関する実態調査を実施し、ひきこもりの状態にある方は少なくとも726人いることが分かった。

本県では、平成23年6月20日に、県精神保健福祉センター内に設置した「香川県ひきこもり地域支援センター」や保健所において、ひきこもり状態にある方や家族からの相談に応じると共に、ひきこもり相談支援に携わる支援者等を対象とした研修会等を行っている。

*ひきこもりの評価・支援に関するガイドラインより

表35 令和元年度ひきこもり相談等実績

	小豆	東讃	中讃	西讃	センター	高松	ひきこもり相談窓口（委託）	ひきこもり当事者傾聴サロン（委託）	計
訪問（延件数）	30	21	43	14	79	86			273
相談（延件数）	28	34	90	11	788	172	73		1,196
相談内訳	電話（延）	22	30	57	4	194	52		476
	来所（延）	6	4	32	6	571	21		695
	メール（延）	0	0	1	1	23	0		25
講演会・研修会（回数）	2	1	1	1	4	2			11
家族教室・交流会（回数）	1	0	1	0	12	0			14
当事者の集団活動（回数）	0	0	0	0	24	0		19	43

*高松市保健センターは、平成28年度から「高松市ひきこもり相談窓口」、平成29年度から「高松市ひきこもり当事者傾聴サロン」を『KHJ 香川県オリーブの会』に委託している。

表 36 令和元年度ひきこもり関係協議会、講演会・研修会等実施状況

	事業名	内 容	実績等	
			回数	延人数
ひきこもり地域支援センター (精神保健福祉センター)	ひきこもり対策連絡協議会	第1回 (R 1.6.25) (1)各機関における支援(状況)について (2)ひきこもりサポーターの活用について (3)香川県ひきこもり実態調査と今後の支援について 第2回 (R 2.2.7) (1)居場所の支援・活動状況について (2)令和元年度新規ひきこもりサポーターの登録状況	2回	65人
	ひきこもり対策研修会	講演:「ひきこもり支援の取り組みと家族心理教育の効果」 講師:山根 俊恵 教授(山口大学大学院医学研究科) *東讃保健福祉事務所共催	1回	163人
	ひきこもり支援者のための実践研修	第1回 (R 1.7.19) (1)講義:「ひきこもりの理解と支援」 講師:原田 豊 所長 (鳥取県立精神保健福祉センター) 第2回 (R 1.9.7) (1)講義:「発達障害を背景とするひきこもり者への支援」 講師:原田 豊 所長 (鳥取県立精神保健福祉センター) 第3回 (R 1.12.6) (1)講義:「CRAFTを活用した家族支援」 講師:海野 順 院長(三光病院) (2)ケース検討	3回	90人
小豆総合事務所	地域保健関係職員等研修会	(1)研修会 「香川県のひきこもり対策とひきこもり実態調査の結果」 「ひきこもりの理解とアンダグレンテの活動について」	1回	53人
		(2)講演会 ①講義:「ひきこもり当事者・家族との関わりについて」 講師:さぬきポレポレ農園 代表 松田 勝氏 ②グループワーク	1回	42人
東讃保健福祉事務所	ひきこもり支援知恵出しネットワーク会議	①現状報告 「ひきこもりの実態調査結果と香川県のひきこもり支援体制について」 ②講演:「中高年層のひきこもり者への支援 ～事例を通して見たひきこもり～」 講師:鳥取県立精神保健福祉センター心理判定員 山下倫明氏 ③事例検討	1回	22人
	ひきこもり対策研修会	センターと共催のため、内容はセンター参照		
中讃保健福祉事務所	ひきこもり支援研修会	講義:「ひきこもりの多面的理解に基づく具体的な本人の家族への支援」 講師:九州大学病院精神科神経科医師 加藤隆弘 氏	1回	37人
西讃保健福祉事務所	ひきこもり対策研修会	①情報提供 ひきこもり実態調査結果と管内からの情報提供 ②講演:「不登校・ひきこもりを支援する」 講師:古新町こころの診療所 院長 嶋 宏美 氏	1回	56人
高松市健康づくり推進課	高松市ひきこもりサポーター活動従事者研修会	第1回 (R1.7.18) ○講義:「ひきこもりの援助は何を手伝うことなのか ～筋違いのおせっかいにならないために～」 講師:元香川大学教育学部教授 小柳 晴生 氏 ○事例検討 第2回 (R2.2.14) ○ファミリーロールプレイ・紙粘土セッション 講師:香川大学医学部教授 竹森 元彦 氏	2回	20人
	ひきこもり相談窓口・当事者傾聴サロン定例会	・相談内容の共有、支援方法の検討 ・情報交換	3回	22人

表 37 令和元年度ひきこもり当事者の集団活動や交流会等の状況

	事業名	内 容	実績等	
			回数	延人数 (実人数)
ひきこもり地域支援センター (精神保健福祉センター)	ひきこもり当事者の集団活動 (ポコアポコ)	ひきこもり当事者の社会参加へのステップを目的とした当事者の集団活動 毎月2回(第1・3水曜日)	24回	90人 (8人)
	ひきこもり親のグループワーク	グループミーティング 毎月1回(第2金曜日)	12回	69人 (16人)
小豆総合事務所	つながろうの会 ～思春期以降のお子さんをもつ家族のために～	・家族のかかわりを考える ～当事者と支援者の支援から～ ・座談会及び質疑応答	1回	15人
福祉事務所 中讃保健	ひきこもり家族のつどい	自由な意見交換に加え、各相談機関の窓口や居場所、研修会等情報交換	1回	14人

1. ひきこもりサポーター養成研修・フォローアップ研修、派遣・活用状況

また、平成26年度に、地域に潜在するひきこもりを早期に発見し、適切な支援機関に早期に繋ぐことで、ひきこもりからの脱却の短期化を目指すために、当事者、家族、民生委員、学生等、幅広い層から「ひきこもりサポーター」の養成研修を実施した。平成27年度からは、ひきこもりサポーターとして活動希望者を登録し、ひきこもりサポーター派遣事業を実施する市町に名簿提供を行うとともに、登録したサポーターに対し、フォローアップ研修を実施している。

【サポーター研修・勉強会等】

令和元年度はひきこもり支援やサポーターの活動の幅を広げるために、一般社団法人 hito.toco に委託しサポーター養成研修等を、行政、関係機関(家族会等)と連携しながら実施した。

	内 容	回数	延人数
ひきこもりサポーター養成研修 (2回シリーズ)	R1年9月21日、22日 ・香川県におけるひきこもり支援の現状とサポーターの活動について ・講義及びグループワーク テーマ「みんなで考える～ひきこもりの基礎知識～」 「みんなで考える～ひきこもりの支援～」 講師：PSI カウンセリングルーム 代表 竹内佑一氏	2回	81人
県内ひきこもり社会資源見学会	サポーターとして適切な情報提供ができるように、10月～11月に「香川県ひきこもり社会資源マップ」に掲載されている民間支援機関及び居場所を見学した。	9回	65人
ひきこもりサポーターフォローアップ研修	R2年2月8日 ・情報提供：養成研修以降のサポーターの動きについて ・講義「総社市ひきこもり支援センター『ワンタッチ』の取り組み」 講師：社会福祉法人総社市社会福祉協議会ひきこもり地域支援センター 山口光司氏 ・グループワーク「サポーターの活動、できること、したいこと」	1回	44人

【ひきこもりサポーター登録者数】

H26 年度	32 名
H27 年度	32 名
H28 年度	25 名
H29 年度	31 名
H30 年度	27 名（活動 23・協力 4）
H31 (R1 年度)	24 名（活動 22・協力 2） 4/1 時点 養成研修後 新規登録者 44 名（活動 28・協力 16） 合計 68 名（活動 50・協力 18） 11/1 時点
R2 年度	64 名（活動 51・協力 13） 4/1 時点

サポーターの登録・名簿管理はひきこもり地域支援センターが行っている。

※（参考）ひきこもりサポーターの区分（H30 年より区分変更）

- 「活動サポーター」当事者・家族に直接支援活動（個別支援、集団支援）を行う。
ひきこもり経験者、ひきこもりの家族等が多く、ひきこもりの苦しみや悩みにつき合い、専門職にできないより身近に寄り添う支援が継続的に実施できる。
- 「協力サポーター」ひきこもり当事者・家族を支え、地域の理解、応援者となる。イベント補助や研修受講、啓発活動等を行う。ひきこもり当事者・家族が地域での孤立防止や地域の社会資源の役割を果たすことができる。

【ひきこもりサポーター派遣・活用状況、実績】

サポーター派遣については市町が主体にする事業であるが、実施自治体が2市町のため平成27年7月からひきこもりサポーター活用事業要綱を定め、県保健所やひきこもり地域支援センターでサポーターの活用を実施している。

	派遣回数	活動延人数（実人数）
H27 年度	15 回	18 名（8）
H28 年度	105 回	251 名（25）
H29 年度	133 回	299 名（20）
H30 年度	134 回	269 名（20）
R1 年度	115 回	242 名（19）

令和元年度実施機関：高松市、まんのう町、善通寺市社会福祉協議会、
中讃保健福祉事務所、ひきこもり地域支援センター

令和元年度活用内容：

- 当事者への直接支援
 - ・訪問…まんのう町、中讃保健福祉事務所
 - ・来所相談、電話相談、傾聴サロン…高松市
- 事業の協力
 - ・当事者の集団活動…ひきこもり地域支援センター
 - ・家族教室…ひきこもり地域支援センター
 - ・体験発表…善通寺市社会福祉協議会、高松市
- 普及啓発
 - ・研修ボランティアスタッフ…ひきこもり地域支援センター

2. 平成 30 年度ひきこもりに関する実態調査とその後の対応

平成 31 年 1 月から 2 月にかけて県全域の民生委員・児童委員を対象にアンケート形式の実態調査を実施したところ、726 人の方がひきこもりの状態にあり、そのうち 19.5%の方が 20 年以上ひきこもっているとともに、52.1%の方が 40 歳以上であるなど、ひきこもりの長期化・高齢化がみられた。また、37.6%の方が「支援を受けていない」状況にあった。

【調査後の対応】

- ・県のホームページにて調査結果を公表（R1.6.17）
- ・ひきこもり対策連絡協議会にて関係機関に報告（R1.6.25）
- ・全民生委員・児童委員には書面にて調査結果を送付（R1.9.3）
- ・ブロック別民生委員・児童委員研修会で調査結果報告とひきこもり研修会を実施 5 回（さぬき市、三豊市、小豆ブロック、中讃ブロック、観音寺市）

3. パンフレットの作成、周知

一般社団法人 hito.toco に委託し、家族が早く相談・支援につながるための冊子「家族のためのひきこもり支援ブック」を令和 2 年 3 月末に作成。

県内ひきこもり相談機関、民間支援団体、精神科医療機関、ひきこもりサポーター、図書館等に配布するとともに、県障害福祉課やひきこもり地域支援センターのホームページでも公開している。